

とらいあんぐる

平成27年度定期総会を開催しました



平成28年3月16日(水) 徳島市水土里ネット徳島(徳島県土地改良事業団体連合会)会議室に於いて、徳島県農林水産部農山漁村振興課 檜垣課長様をはじめ次世代体制担当吉成課長補佐、高野主任主事、渡川主任主事のご臨席を賜り、平成27年度の定期総会を開催しました。

開会に先立ち東條会長より挨拶がありました。

農業情勢については、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の問題が山積みとなっており、このような中、昨年、TPPが妥結締結され、輸入農産物の増加は避けられなくなってくるので、今後の状況に対応した農業展開が必要になってくると思います。

先日、農地中間管理機構が仲介する形で、イオンが阿波市市場町で農業生産を行うという話がありましたが、これも新しい農業の一つの形だと思います。今後は、こういった企業による農業も増えるのではないかと思います。

当ネットワークについてですが、広報トライアングルを、研修終了後に発行し、会員の意識啓発に努めて参りたいと思います。また、平成28年度におきましても、引き続き土地改良区の体制強化のため、次世代の役職員の育成を目的とし、研修会や意見交換会などの活動をしていきたいと思っておりますので、皆様の活発な意見で総会が進められますようお願いいたします。

- 日時：**平成28年3月16日(水)午後2時～
場所：徳島県土地改良事業団体連合会会議室
議題：第1号議案 平成27年度活動報告の承認について
 第2号議案 平成28年度活動計画(案)について



なお、提案した議案は原案どおり承認されました。承認された平成28年度活動計画に基づき、本ネットワークが益々発展するようご協力をよろしくお願い申し上げます。

総会に続いて研修会を開催しました。



定期総会開催に当たり、徳島県農山漁村振興課 檜垣課長より挨拶をいただきました。

土地改良区の役職員、組合員の方が忌憚なく意見交換できる場として、全国初の取り組みである本「ネットワーク」が設置され、注目を集めてから、はや6年度が経過しようとしております。

その間、会報の発行や研修会の開催など、様々な活動を行ってこられたものと同っております。

土地改良区は地域の農業・農村を支える要であり、「土地改良への思い」を「いかに適切に継承するか」が大きな課題となっております。

このような状況において、本「ネットワーク」が、構成員の資質向上を図る活動や、土地改良区全体の体制強化を図るための研究・普及啓発活動が自立的に行われ、より大きな成果を上げ

ることにより、将来の土地改良区の礎となっていられることを期待してやまないと考えております。

県といたしましては、今後とも、本「ネットワーク」が自立的に行われ、会員相互間の共助を軸とした活動や、これからの土地改良区の発展に向けての活動に対しまして支援することで、ひいては、本県農業の発展につなげてまいりたいと考えておりますので、なお一層のご尽力をお願いすると挨拶をいただきました。

総会に引き続き研修会を開催しました

「農業制度資金について」

講師：徳島県農林水産部農林水産政策課
政策推進担当 主任 安宅秀樹



農業制度資金については、各種目的に応じた制度がありますが、今回は農業を営まれる上で、生産基盤の整備、施設の造成・取得、農業機具の購入などに資金が必要なときには、国、県、市町村が利子助成を行うことにより貸付金利が低利となっている制度資金について説明をしていただきました。

土地改良区の役職員としまして、組合員である農家の方への情報として把握しておくべきこととして重要な制度内容であります。

■ スーパーL資金(農業経営基盤強化資金)

資金の特長

認定農業者の方が、農業を営むのに必要な資本装備の高度化を図り、経営を改善、発展させることを目的とした施設資金です。

・この資金の相談については日本政策金融公庫

■ 農業近代化資金

資金の特長

農業者等が、農業用機械・施設の取得や更新など経営を近代化させる場合に活用できる資金で、県が融資機関に利子補給を行うことにより低利な資金となっています。

・この資金の相談については、地域の農協等金融機関

■ スーパーS資金 (農業経営改善促進資金)

資金の特長

認定農業者の方が経営の改善を図るのに必要な短期の「運転資金」

・この資金の相談については、地域の各総合県民局及び東部農林水産局の農業支援担当(地域農業支援センター)

■ 農業改良資金

資金の特長

農業者等が、農業の新部門への進出、加工・流通部門への進出等、新たな取組を始める場合に活用できる無利子の資金

・この資金の相談については日本政策金融公庫

先進的事例紹介

有限会社 榎山農園 専務取締役 榎山 直樹

■ 経営理念 ◇ 榎山農業で世界を幸せにする ◇

■ 行動指針

- ① 自覚と責任の行動で高め合いつつ、人生を幸せに
- ② なくてはならない存在として、地域環境を幸せに
- ③ 最先端の農業技術と日本人の哲学を基本に、世界に通用する効率的な農業経営をもって榎山農業とする



榎山農園さんは、徳島県小松島市坂野町を中心として、「環境を幸せにする農業経営」をテーマに、安全・安心な日本農業の強みを活かし、積極的な事業展開を図っておられます。また、先進的なビジネスモデルの構築のみならず、農業を通じて地域に根ざした社会貢献活動にも取り組まれている若手経営者です。

次世代ネットワークの研修会に榎山専務を招聘し、地域の農業に対しての熱心な取組を講演していただきました。会員は熱心に聞き、講演の後には興味深く質問していました。

榎山農園さんをご紹介します。

■ 栽培作物 フルーツトマト、水稲、麦、大豆、コマツナ、ハウレンソウ

専務取締役 榎山直樹 氏

農業研修をアメリカで2年間行った後、帰国就農し現在10年目。

法人化し地域の農業を良くしていくため耕作者のいない田んぼを引き受けて営農している。メインはフルーツトマトの養液栽培。

生物多様性を重視した農業に取り組むため、有機栽培の葉物野菜にも取り組みはじめた。自分自身が地域の農業の担い手として新しい農業を拓いていきたい。



■ こだわり

フルーツトマトは麦の殻皮を炭化した炭100%の培地で養液栽培している。全果実をセンサーで糖度計測し、糖度によって等級を決め出荷している。

水稲は鶏糞を主に使用し、秋処理時にマグネシウム、石灰と入れることで地力を増進。現在特別栽培米に取り組んでいる。葉物は無化学肥料・無農薬で栽培している。



徳島市内から国道バイパス55線を一路南へ。赤石トンネルから5分ほど車を走らせると、田園風景のなかに白いハウスが立ち並ぶ一画が見えてきます。榎山農園のトマトハウスです。

← 写真



← 写真: 社長のスケジュールは写真全員がわかり、作業はタスクリストで管理しています。

講演の中で、「農作物は手をかけてやっただけ、必ず応えてくれる。こんなにやりがいのある仕事はほかにないですよ」と笑顔でした。

ハウスの温度管理を自動制御でおこない、今は田んぼの温度・湿度・水位・降水量の自動管理を試験運転中です。



今後の課題<生産面>

- トマト: 生産面積の拡大、効率化、オペレーション
- 水田: オペレーション、今後の面積増加に対応する為の施設増強
- 葉物野菜: 生産面積の拡大、人材育成
- 椎茸: 生産面積の拡大、効率化、オペレーション

今後の課題<経営面>

- 働く人が幸せになれる職場づくり
- 加工品の取り組み
- ローカル→地域に必要とされる存在になる
- グローバル→農を通じて価値を提供し、その地域の人々を幸せにする 幸せ → 物質面・心理面ともに豊かになること

発行



とくしま水士里ネット

とくしま水士里ネット次世代ネットワーク 事務局

徳島市伊予町1丁目32番地 徳島県土地改良事業団体連合会内

電話:088-626-3211 FAX:088-655-3399

Mail-address jisedainet@tokudoren.or.jp